



No.42 2014. 9

news

BIZ 島田節子

400-0032 甲府市中央2-9-12

TEL/FAX 055-227-5927

biz@setuko.jp <http://www.setuko.jp>

< “目立つ”ということ >

という記事に出会った。人間には特徴的なモノの方が覚えやすく思い出されやすい、という“レストルフ現象”と呼ばれる性質があると説明する。ある時“島田さんの作品はすごく目立ちますよね。あれはどうやって着想するんですか”と言う人がいた。この事が先の話と同じかどうかは解らない。その人は続けて言う。“目立つのってみんな喜ぶじゃないですか”と。シマダは自身が目立つのは好まず、目立つものを創りたいという意識もなく、楽しく明るいユニークな形を考えるのが好きなだけなのだ。しかし、それにも落とし穴はある。“ひとりよがり”ということ。“これって面白そう”と考え出すとストップが効かない。楽しい事ばかりではない。より良い形を求めて悩みに悩む。数週間、数か月もあれば数年の時もある。悩み自体はモンダイではない。ずっとそのことばかりを考えているのではなく、ある時ふっと訪れるときがある。勇み足になって極端にならぬよう細心に注意深く、と思っている。ところが製品になってみると、えっ？これ一体誰が喜ぶの？とひとりよがりを責めて落ち込む。しばし眺めている内、でもやっぱり面白いじゃない、とそれを半ば楽しんでいる自分がある。もはや救いようがない。目立つなどということは考えない方が安全です。しかし、冒頭の記事の最後ではこの現象を意識してモノづくりをすると効果的です。と締めくくる。シマダの目立つはいきすぎなのか。ひとりよがりの究極なのか。ひとりよがりは社会性の欠落なのだ。



R-0437 リング
水晶・グリーンカーネット・パライバ・サファイア・
ダイヤモンド・GP



N-0465 ペンダントネックレス
ホワイトカルセドニー・ダイヤモンド・ダイヤ
GP

<地中海の力>

それがいつ、どの街でのことか覚えていない。突然眼前に現れた海。その衝撃だけが記憶に残っている。まばゆい明るさと豊かさ。“これが地中海”と誰かが後で言う。今まで感じたことのない幸福感、存在の喜び。一体これは何だろう。海には夫々その土地なりの趣がある。日本の北の海の激しい波は美しく見飽きない。眼前の海は圧倒的な豊かさと無条件に生きる喜びを与えてくれる。



清里別荘地に群生する
アナベル (アジサイ科)

そして数々の古代ギリシャ彫刻の逞しい存在感とそこの神々の破天荒な物語を想起させる。静かでストイックな日本の精神性の対極にいる。日本文化のしきたりで育った自分を脆弱と感じ、この地に生きる逞しい明るさがその風土の違いを乗り越え鼓舞してくれるのだろう。

<愛する植物達>

きっかけは10数年前の散歩中にふと目に止まったユニークでキュートな姿。それから多肉植物買いが始まった。多肉故の丸みを帯びた身体は造形的、不思議なオブジェの姿を呈す。形は個性的で、頑丈な身体つきのオヤジ風もいれば苔のように繊細なものもある。折にふれ“今どっち方向にのびたいの?”と問いかけ眺めていたくなる。サボテン類は手間要らず、放っておくのが良いと言われても出身地は南米、南アフリカなどの高温乾燥地。多湿の日本では居心地が悪いのでは、と気になる。今、最もお気に入りなのは“アガベ”という種類。地で育っているその姿はおおらかに媚びることがない。シマダはこのアガベを鉢で買い大切にしていたが長くて4年位で朽ちてしまう。今は4代目に挑戦中。いつか地におろせたらと願っている(地で育つものと鉢のそれは別種と言う話も聞く)。そして“日本の冬をいくつも越えるのよ”と言い聞かせている。



土地で育ったアガベ
目標の逞しい姿



≈手作りキャンドル講習会 11月予定≈

リボンとペーパーナプキンだけでオリジナルの my candle がつくれます